作成日 2013年11月6日
改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	アーデントフロアブル
会社名	CBC株式会社
住所	東京都中央区月島2-15-13
電話番号	03-3536-4631
緊急時の電話番号	03-3536-4631
FAX番号	03-3536-4743
メールアドレス	d-kobayashi@cbc.co.jp

---

2. 危険有害性の要約

GHS分類 分類実施日：H25.11.6、事業者向けGHS分類ガイダンス(H21.3.1版)を使用

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉じん)	分類対象外
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分3
	水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語	警告
危険有害性情報	眼刺激 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 水生生物に有害
注意書き	【安全対策】 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 取扱後は眼および皮膚をよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 【応急措置】 特別な処置が必要である(このラベルの『4. 応急措置』を見よ)。 汚染された衣類を再使用す場合には洗濯をすること。 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 皮膚刺激または発疹が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。 【保管】 なし 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。
国・地域情報	データなし

---

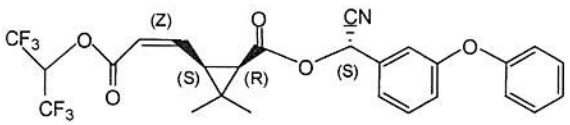
3. 組成及び成分情報

化学物質

単一製品、混合物の区分	混合物
化学名又は一般名	アクリナトリン水和剤(アーデントフロアブル)
含有量	
アクリナトリン	・・・ 6.0%
水、界面活性剤等	・・・ 94.0%

成分	CAS登録番	% (重量)
アクリナトリン	101007-06-1	6.0%
水、界面活性剤等	非公開	94.0%

化学特性
(示性式又は構造式)



官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	化審法: − 安衛法: −
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし
濃度又は濃度範囲	アクリナトリン:6.0%

4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、直ちに汚染場所から移動させること。軽症時：被災者の観察を続けること。症状が悪化した場合は、直ちに医師の治療を受けること。重症時：直ちに医師の治療を受けること、または救急車を呼ぶこと。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類や靴を取り除くこと。水で洗浄を始めず、乾いた布巾で拭き取るかタルク粉を使用すること。続いて水と石鹸で洗浄すること。その後、ビタミンEクリームや脂肪性スキンケアオイルやクリームを塗ること。汚染が深刻な場合や気分が悪い場合は、直ちに医師の診察を受けること。
目に入った場合	直ちに十分な水や洗眼液で残余感が無くなるまで眼を洗うこと、また時々まぶたを開けること。コンタクトレンズを着用している場合は数分後に取り外し、もう一度眼を洗うこと。直ちに医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合	水で口を洗わせること、また水を飲ませること(吸収を促進させるミルク、クリーム、その他資質を含んだ物質を飲ませないこと)、ただし無理に吐かせないこと。嘔吐した場合は、再度水で口を洗い、水を飲ませること。意識不明の被災者に物を与えてはならない。直ちに医師の治療を受けること。
予想される急性症状及び遅発性症状	製品の吸入は不快感があり、咳や呼吸困難の原因となる。アクリナトリンは、汚染場所での火傷、うずき、しびれなどの刺激の原因となる。
応急措置をする者の保護	データなし
必要とされる応急処置・特別処置	中毒の兆候がある場合は、直ちに医師やクリニック、病院に連絡すること。被災者がピレスロイド系殺虫剤のアクリナトリンに暴露した被災者の状況や暴露の程度を説明すること。直ちに製品のある場所から被災者を移動させること。皮膚にうずく痛みを感じた場合は、直ちにビタミンEクリームを塗ること。このため、作業場にビタミンEクリームを置いておくこと。
医師に対する特別注意事項	皮膚への浸透が認められた場合は、製品は日焼けに似た刺激性の原因となる。物質自身はオイルやクリームに基づく脂質のような無極性環境に吸い込まれる。ビタミンEクリームは他のピレスロイド系殺虫剤に対して有益であると報告されている。水は高い極性があるため軽減できず、刺激性を長引かせる。お湯は痛みを増加させる。胃洗浄や活性炭の投与を検討すること。汚染除去後、対症療法や支持療法を行うこと。通常は自然と回復する。眼への汚染は、局所麻酔薬の滴下を検討すること。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災時：粉末薬品、二酸化炭素、大火災時：水噴霧、泡
使ってはならない消火剤	大量注水
特有の危険有害性	分解産物としては、揮発性、有害性、刺激性、引火性物質がある。(一酸化炭素、二酸化炭素、フッ化水素、酸化窒素、シアン化水素、五酸化リン、その他フッ素化合物)
特有の消火方法	火災に晒されている容器を冷却する為に、水噴霧を使用すること。有害な蒸気や毒性分解産物を避けるために、風上から消火活動を行うこと。消火作業は、保護区域から可能な限り離れた位置から行うこと。排水溝へ水を流出させないこと。
消火を行う者の保護	自給式呼吸器と保護衣を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	流出を回避するためのプランを準備しておくことが望ましい。流出が起きた場合は、所定のプランに従って、直ちに流出物を取り除き流出場所の清掃を行うこと。汚染の可能性がある場所や装置は、清掃することが望ましい。流出物を収集するために、開閉可能な空容器を用いること。 10MT以上の大流出時: 1) 保護具を着用すること 2) 緊急連絡先に連絡すること 3) 関係当局に連絡すること 流出物を清掃する際に、保護具を着用すること。流出の程度に応じて、呼吸器、保護面または保護メガネ、対化学防護服、保護手袋、保護靴を着用すること。安全であれば直ちに流出源を止めること。流出場所から無関係者を遠ざけること。着火源を取り除くこと。可能な限りミストの形成を回避もしくは減らすこと。
環境に対する注意事項	土壌や水への汚染を防ぐために、流出物を回収すること。洗浄に用いた水を、地上へ流出させないこと。不可抗力での水への流出が起きた場合は、適切な関係当局へ連絡すること。
回収・中和	流出による損傷効果を妨げる(堤防や蓋など)ための可能性を考慮すること。防爆工具・装置を使用すること。床や不浸透面への少量流出は、ユニバーサルバインダーやフラー土、その他の吸収性クレーのような吸収性のある物質で吸収すること。汚染された吸収剤を適切な容器に集めること。十分な水と洗剤で流出場所を清掃すること。洗浄液を吸収剤で吸収し、適切な容器に移すこと。使用済み容器は、適切に密閉しラベル表示すること。土壌に染み込んだ流出物は、土壌を掘り起こして適切な容器に移すこと。水への流出は可能な限り汚染水と分離して回収すること。
封じ込め及び浄化方法・機材	データなし
二次災害の防止策	データなし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止措置及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	注意事項	産業環境において、製品との接触を避けることが望ましい。可能であれば、遠隔制御システムが使われている閉鎖空間を使用すること。不可能な場合は、できるだけ機械を用いて取扱うこと。十分な換気や局所排気を使用すること。排ガスはフィルターにかけるか処理すること。眼や皮膚、衣類への接触を避けること。蒸気やミストをの吸入を避けること。取扱い後は手を洗うこと。汚染された衣類はすぐに取り除き、十分に洗濯すること。環境へ放出しないこと。農薬として本製品を使用する場合、容器に貼られているラベルや公的ガイダンスに記載の注意事項や保護対策を確認すること。保護手袋を外す前に、水と石鹸で保護手袋を洗うこと。作業後、すべての作業着と作業靴を脱ぐこと。シャワーを浴び、水と石鹸を用いること。作業から離れた時、きれいな着衣を着用すること。使用済みのの保護衣や保護具は、水と石鹸で洗うこと。呼吸器具を清潔にし、付随の説明書に従いフィルターを交換すること。

	安全取扱い注意事項	製品は農薬であり、公的に承認された用途にのみ使用すること。
	局所排気・全体換気	『8. ばく露防止措置及び保護措置』に記載の局所排気・全体換気を行う。
保管	技術的対策	製品は通常保管条件下で安定。ラベルの添付された容器に密閉して保管すること。密閉、換気に注意して、不燃性物質で建設された建屋に保管すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。毒物の警告表示を行うことが望ましい。保管場所は化学品専用とし、食品、飲料、資料、種子などと混在させないこと。手洗い場を設けること。
	混触危険物質	データなし
	保管条件	推奨保管温度:0 - 30℃ 高温、冷凍、過度の直射日光を避けること。
	容器包装材料	データなし

---

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度		未設定:主成分のアクリナトリンの暴露限界数値は規定されていないが、極力吸引を避けること。なお他のピレスロイド系農薬の暴露限界値は0.02 - 0.04mg/m3である。
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)		
	OSHA PEL	未設定
	ACGIH TLV(s)	未設定
	日本産業衛生学会	未設定
設備対策		閉鎖環境での使用時は保護具は不要。下記記載の保護具は、その他の環境時に適用すること。開封前に、適正な保護具や配管設備の安全を考慮すること。
保護具	呼吸器の保護具	公的に承認された呼吸保護具、顔面マスクを着用すること。蒸気またはミストの吸引を避けること。
	手の保護具	ブチルゴムやニトリルゴム等の非透過性ラミネート処理された化学品防御用の長手袋を使用すること。アクリナトリンに対する上記手袋の限界暴露時間は不明。ただし一般的に保護手袋は急性毒性に対する局所保護の目的で使用される。手袋内の汗や、クロスコンタミネーションが発生しやすいので、汚染された場合は直ちに手袋を交換すること。汚染された手袋で他の物に触れないこと。使用済みの手袋は廃棄して、再利用はしないこと。作業後に、洗剤を使用して手洗いを行うこと。化学品飛散防止の為、作業場での面談は手袋着用が不要な場所が望ましい。
	眼の保護具	安全保護メガネ、または顔面マスクを着用すること。眼への接触を避けること。
	皮膚及び身体の保護具	暴露レベルの度合いにより、皮膚への直接の接触を避けるため、化学品防護服を着用すること。通常作業時に製品へ直接の接触が一時的に避けられない場合は、防水ズボン、化学品保護エプロン、またはポリエチレン製防護服を着用すること。使用後は汚染レベルにより保護服を廃棄すること。暴露時間が長い場合は、ラミネート製保護服を着用すること。
衛生対策		作業場所は常時清潔を保つこと。
その他		特になし

---

9. 物理的及び化学的性質

物理的状	形状	液体
	色	白色

臭気	わずかな化学臭
臭気限界	データなし
pH	5.04
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	＞95℃
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル＝1)	データなし
比重(密度)	1.03 g/mL
溶解度	データなし
オクタノール・水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	1190 cps
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取り扱い条件において安定。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	熱を加えると有毒ガスや刺激性ガスが発生するおそれがある。
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	『5. 火災時の措置』に記載の特有の危険有害性を参照。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラットを用いた経口投与試験、LD50：＞2,000mg/kg
	経皮	ラットを用いた経皮投与試験、LD50：＞2,000mg/kg
	吸入	吸入(ガス)： データなし 吸入(蒸気)： データなし 吸入(粉じん)： データなし 吸入(ミスト)： データなし
皮膚腐食性・刺激性		刺激性なし
眼に対する重篤な損傷・刺激性		僅かな刺激性
呼吸器感作性又は皮膚感作性		呼吸器感作 データなし 皮膚感作性： 陽性
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)		データなし
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)		データなし
吸引性呼吸器有害性		データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	水産動植物への影響に関する試験において、魚類：LC50(96h)：27.4mg/Lのデータから、区分3とした。
水生環境慢性有害性	水産動植物への影響に関する試験において、魚類：LC50(96h)：27.4mg/Lのデータから、区分3に該当するが、分解性に関するデータが無いため、分類できないとした。

生体毒性	魚類:コイ(Cyprinus carpio)	:LC50(24h) 53.8mg/L :LC50(48h) 27.4mg/L :LC50(72h) 27.4mg/L :LC50(96h) 27.4mg/L
	甲殻類:オオミジンコ(Daphnia magna)	:EC50(24h) ＞100mg/L :EC50(48h) 48.3mg/L
	藻類:緑藻(Pseudokirchneriella subcapitata)	:ErC50(0-72h) ＞100mg/L :EyC50(0-72h) ＞100mg/L :NOEC 50mg/L
残留性/分解性		データなし
生体蓄積性(BCF)		データなし
土壌中の移動性		データなし
PBT/vPvB評価結果		データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	内容物の残っている容器や汚れた空容器は、有害廃棄物と見なすこと。
汚染容器及び包装	再使用や再加工の可能性を考慮すること。不可能な場合は、許可された化学品廃棄工場へ運ぶか、排煙洗浄装置で焼却して廃棄すること。容器は3回またはそれ同等に洗い、再利用や修理を行うこと。または容器を他用途に使用しないために穴をあけ、ゴミ処理場で廃棄すること。排煙洗浄装置での焼却は包装容器の焼却に使用できる。保存や廃棄で、水や食品、餌、種を汚染させないこと。下水道へ放出しないこと。廃棄物や容器の処理は全ての法律に従って行うこと。

14. 輸送上の注意

国連番号	3082
品名	Environmentally Hazardous Substance, Liquid, n.o.s. (Acrinathrin)
国連分類	クラス9
容器等級	PGⅢ
海洋汚染物質	該当
注意事項	環境中に放出しないこと。

15. 適用法令

農薬取締法	農林水産省登録第23266号

16. その他の情報

農薬の使用、保管及び廃棄については、製品ラベルに従うこと。また、使用保管及び廃棄についての必用にして適切な注意事項は製品ラベルに表示されている。製品ラベルに表示されていない方法による使用は脱法行為である。